

## 令和7年度補助系統別事業評価票( 岡崎・安城 線)

4

## 1. 補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
岡崎・安城	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	名鉄東岡崎駅～矢作橋～JR安城駅	9.1 km	12.3 回	岡崎市 安城市
細 系 統				km	回	
				km	回	
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)	模式図(△□)
<p>&lt;接続する系統&gt; 名鉄名古屋本線、JR東海道本線</p> <p>&lt;接続される系統&gt; 安城線、あんくるバス(循環線、安祥線、東部線、西部線、作野線)</p>	

## 2. R7年度の運行状況

事業実施の適切性		《参考数値》 主要指標の推移(△)						
計画どおり運行されたか(△)		評価の基準＜事業実施の適切性＞ A. 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合 B. 車両故障等運行事業者の責に帰すべき事由により、運休（一部区間の運休を含む）が生じた場合						
評価	計画どおりか。そうでない場合は理由	年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
A	計画どおり	年間利用者数【人】	36,515	43,020	61,390	60,224	61,924	
		平均乗車密度(実績)	1.2	1.5	2.1	2.0	2.2	
		輸送量	(計画)	19.6	18.4	25.8	15.9	23.3
			(実績)	14.7	18.4	25.8	24.6	27.0
		収支率(実績)	21.01	24.66	33.15	32.34	31.63	
		評価の基準＜目標・効果達成状況＞ A. 年間目標利用者数を達成できた場合 B1: 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の75%以上の利用があった場合 B2: 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の50%以上の利用があった場合 C. 年間利用者数が目標の半数に満たなかった場合						

目標・効果達成状況				
評価	目標の達成状況(△)		運営主体の所見、理由分析、認識(△)	
A	目標	45,039	定期外の利用者数が増加したことにより利用者数が前年比102.8%(目標達成率137.5%)と増加した。また、路線収支状況は、2024年度から始まった運転手の労働時間制限や待遇改善に伴う人件費、ウクライナ・中東問題による燃料高騰に伴い経常費用が対前年比109.2%増となり、経常収益は対前年比106.9%で収支率は31.63%であり、前年より0.71pt減少した。	
	実績	61,924		
	達成率	137.5%		
	要因	定期外の利用者数が増加したため。		
運行事業者の所見等(△)			市町村の所見、理由分析、認識(□)	
運営主体と運行事業者は同じ			市町村名：岡崎市	市町村名：安城市
			JR安城駅付近に大型商業施設ができたことや、レジャー施設前へ停留所を変更したことにより、令和6年度と比べ、輸送量・年間利用者数が増加したと考えられる。引き続き、輸送人員の増加が期待できる。	
			市域を跨ぐ路線であり、JR安城駅でコミュニティバス(あんくるバス)と接続する重要路線である。新たな利用者の発掘のため、大型アミューズメント施設を経由する路線に変更したことに加え、大型商業施設開業に伴い利用者が増加していると考えている。現在の利用促進を継続実施するとともに、商業施設と連携した利用促進策を実施することで、さらなる利用者の増加を図りたい。	
			市町村名：	市町村名：

複数市町村を跨ぐ系統としての役割				
指標(市町村を跨いでの利用)	利用状況及び所見(△)		住民の利用状況(□)	
市町村を跨ぐ利用者数(△)	1,980 人/月	両地区を跨ぐ利用者の内訳は、通勤定期6.1%、通学定期0.0%、ゴールド・シルバーバスを利用する高齢者18.2%、現金、ICSFの定期外75.8%。路線自体の利用者数は減少し、市町村を跨ぐ利用者也減少している。	市町村名:	岡崎市
全利用者に占める率(△)	39.1 %		市町村名:	安城市
特記事項	令和7年5月の乗降調査より算出		市町村名:	

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報	
運営主体《断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等》(△)	沿線市町村《沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載》(□)
主要停留所利用者数/日: 東岡崎52人、康生町37人、岡崎公園前26人、北本郷19人、東新田8人、安城駅前61人	

3. R7年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)			
	HP、CentXなどのスマートフォンでの時刻検索システム、バスロケーションシステムの提供や、コンテンツプロバイダへのデータ提供を行い、利用促進を図った。	市町村名： 岡崎市	市町村名： 安城市	市町村名：	市町村名：
改善点とした事項(△)	利用者の実態把握に努めるとともに事業者・沿線市が連携した利用促進を進める。	公共交通マップの作成・配布等を行い、地域住民へ周知を図った。	コミュニティバス時刻表、バスマップ、公共交通活用ガイド冊子を作成・配布し、公共交通の情報提供を行った。		
関係者の連携等(△□)	公共交通会議等の開催。		岡崎市、運営主体と連携し、大型アミューズメント施設へのアクセスに利用されるようルート変更を実施した。(令和6年10月1日より路線変更)		

4. 今後の課題

課題と認識している事項				
運営主体(△)	沿線市町村(□)			
運転士不足による現状のダイヤ便数の確保を維持するためにも従業員の処遇改善をはかる必要がある。また、現状のサービスを維持しつつ、利便性向上に努めるとともに、沿線市と一体となり利用者増加のため、新たな利用者発掘を目的とした利用促進策を実施する必要がある。	市町村名： 岡崎市	市町村名： 安城市	市町村名：	市町村名：
	昨年度と比較して利用者が増加したが、サービスを維持しつつ利便性向上に努めるとともに、事業者と沿線市が一体となり、住民の利用ニーズに合わせた維持及び改善策を実施する必要がある。	持続可能な路線に向け、さらなる利用者の増加が必要であることから、商業施設と連携した施策を実施するなど、新たな利用者発掘を目的とした利用促進策を実施する必要があると考える。		
運行事業者(△)				
運営主体と運行事業者は同じ				

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組				
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)		
R6年度、R7年度に行う取組	継続してHP、スマートフォンでの路線・時刻検索、バスロケーションシステムの情報提供、コンテンツプロバイダへのデータ提供を行う。また高齢者用定期券ワールド・シルバーパスのPRを積極的に実施し、昼間帯の利用促進を図る。	市町村名： 岡崎市	市町村名： 安城市	市町村名：
		公共交通マップの作成・配布等、現在実施している取組みを継続して行う。	時刻表、バスマップ、公共交通活用ガイド冊子等への掲載を継続するとともに、大型商業施設と連携した交通系ICカードを活用した利用促進策の周知を図ることさらなる利用者の増加につなげたい。	

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況についての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通計画(地域公共交通網形成計画)に記載した補助系統の目標と評価

	沿線市町村(□)			
目標	市町村名： 岡崎市	市町村名： 安城市	市町村名：	市町村名：
	地域のニーズにあった地域主体の交通	公共交通全体の年間利用者数(内、名鉄バス岡崎・安城線を含む)		
自己評価	都市間の交流を促進するために必要な路線であるため、安城市と協調して維持及び改善を図っていく必要がある。	公共交通全体の年間利用者数は増加しており、当該路線も同様に増加している。移動需要の増加や各種の利用促進施策により、利用者の増加につながったと考えている。		

7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)			
市町村名： 岡崎市	市町村名： 安城市	市町村名：	市町村名：
	JR安城駅であんくるバス循環線(右・左)、安祥線と接続しており、すべての路線で目標値を達成している。 【循環線(右・左)】目標値:175,000人、実績値:200,307人 【安祥線】目標値:25,100人、実績値:32,918人		

通信欄	(この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)
※マクロを用いて集計しますので、セルの結合は絶対に変えないでください	

系統名	No. 運行事業者
大沼	1 名鉄バス(株)
岡崎・足助	2 名鉄バス(株)
矢並	3 名鉄バス(株)
岡崎・安城	4 名鉄バス(株)
日進中央	5 名鉄バス(株)
星ヶ丘・豊田	6 名鉄バス(株)
愛知医科大学病院	7 名鉄バス(株)
本地ヶ原	8 名鉄バス(株)
ふれんどバス①	9 名鉄バス(株)
ふれんどバス②	10 名鉄バス(株)
伊良湖支線(福祉C堀切)	11 豊鉄バス(株)
作手	12 豊鉄バス(株)
田口新城	13 豊鉄バス(株)
伊良湖本線(渥美病院休暇村明神)	14 豊鉄バス(株)
新豊	15 豊鉄バス(株)
伊良湖本線(豊橋保美)	16 豊鉄バス(株)
豊川(体育館前)	17 豊鉄バス(株)
豊川(イオン病院)	18 豊鉄バス(株)
豊川(イオンモール豊川)	19 豊鉄バス(株)
新城名古屋藤が丘線	20 豊鉄バス(株)
半田・常滑(A)	21 知多乗合(株)
半田・常滑(N)	22 知多乗合(株)
横須賀(A)	23 知多乗合(株)
東ヶ丘団地	24 知多乗合(株)
上野台	25 知多乗合(株)
大府	26 知多乗合(株)
あいあいバス(北部循環コース)	27 知多乗合(株)
岡崎・西尾(青野)	28 名鉄東部交通(株)
岡崎・西尾(西尾市民病院)	29 名鉄東部交通(株)
勝川あいち航空ミュージアム	30 あおい交通(株)
飛島公共交通バス(蟹江線①)	31 三重交通(株)
飛島公共交通バス(蟹江線②)	32 三重交通(株)
岩倉	33 東濃鉄道(株)

運営主体	計画輸送量	関係市町村1	2
名鉄バス(株)	15.1	岡崎市	豊田市(旧下山村)
名鉄バス(株)	32.3	岡崎市	豊田市(旧足助町)
名鉄バス(株)	39.2	豊田市(旧足助町)	
名鉄バス(株)	23.3	岡崎市	安城市
名鉄バス(株)	58.5	日進市	長久手市
名鉄バス(株)	16.9	日進市	みよし市
名鉄バス(株)	18.5	尾張旭市	長久手市
名鉄バス(株)	37.2	名古屋市	瀬戸市
名鉄バス(株)	42.0	碧南市	西尾市
名鉄バス(株)	51.4	碧南市	西尾市
豊鉄バス(株)	17.8	田原市(旧渥美町)	
豊鉄バス(株)	20.1	新城市(旧作手村)	
豊鉄バス(株)	31.1	新城市	設楽町
豊鉄バス(株)	25.2	田原市(旧渥美町)	
豊鉄バス(株)	40.4	豊橋市	豊川市
豊鉄バス(株)	21.6	豊橋市	田原市(旧渥美町)
豊鉄バス(株)	25.3	豊橋市	豊川市
豊鉄バス(株)	24.9	豊橋市	豊川市
豊鉄バス(株)	33.1	豊橋市	豊川市
豊鉄バス(株)	20.7	名古屋市	新城市
知多乗合(株)	40.0	半田市	常滑市
知多乗合(株)	19.0	半田市	常滑市
知多乗合(株)	29.7	東海市	大府市
知多乗合(株)	29.8	東浦町	知多市
知多乗合(株)	66.3	東海市	大府市
知多乗合(株)	30.0	大府市	東浦町
知多市	25.4	知多市	東海市
名鉄東部交通(株)	63.5	岡崎市	西尾市
名鉄東部交通(株)	35.9	岡崎市	西尾市
あおい交通(株)	20.4	春日井市	豊山町
飛島村	71.6	弥富市	蟹江町
飛島村	17.6	弥富市	蟹江町
名鉄バス(株)	19.2	小牧市	岩倉市

東郷町

尾張旭市

長久手市

新城市

長久手市

阿久比町

阿久比町

飛島村  
飛島村

①補助対象事業者等		②事業概要		③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	【計 A： B：
運営 主体	運行 事業者	No.、系統名	運行区間			
名鉄バ	名鉄バ	4 岡崎・安城	名鉄東岡崎駅	#VALUE!	A 計画どおり	A

⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/ 幹線系統としての役割		
計画目標指標：利用者数】 達成 未達成	輸送量(人)				収支率(%)			
	R4 計画	R4 実績	(平均乗 車密度)	(運行 回数)	R3 実績			R4 実績

目標45039実績61924: 23 27 2.2 12.3 32.34 31.63 両地区を跨ぐ利用者の内訳に

⑦事業の今後の改善点  
(特記事項を含む)

継続してHP、スマートフォンでの路線・時刻検索、バスロケーションシステムの情報提供、コンテンツプ

---



ロバイダへのデータ提供を行う。また高齢者用定期券ゴールド・シルバーパスのPRを積極的に実

施し、昼間帯の利用促進を図る。岡崎市公共交通マップの作成・配布等、現在実施している取組、

みを継続して行う。安城市時刻表、バスマップ、公共交通活用ガイド冊子等への掲載を継続する。

とともに、大型商業施設と連携した交通系ICカードを活用した利用促進策の周知を図ることでさらな

る利用者の増加につなげたい。